

『協働のまちづくり懇談会』 会議録

(H25. 11. 27 18:00 ～ 砂川市地域交流センター)

出席者

- ・砂川市市民活動等入門講座受講者 17名
- ・市 善岡市長
- ・事務局 福士市長公室課長、板垣協働推進係長

1. 開 会

福士課長

2. 挨拶

市長挨拶 ～ 皆さん、こんばんは。

今朝は雪も降り、大変お寒い中、お集まりをいただきまして誠にありがとうございます。

私は先日、視察で広島の方に行ってきましたが、寒気が入っていてこちらと同じように寒く、初日に風邪をひいてしまい、まだ復調しておりませんが、今日は皆さん方にお会いできるということで頑張ってお出まいました。

協働という言葉は昔からありますけれども、行政は新しい言葉をつくるのが好きで、つくりますがなかなか実態が伴わないということがあります。それを何とかしなければならぬというのが、私が市長になってからの思いであります。それを実現していくためには、市長が先頭に立っていろいろな方々の声を聞く。そしてメッセージを発信する。それに伴って職員も動くというスタイルにしないとなかなか進んでいかない。行き先が見えると公務員は優秀ですからすぐに動くようになる。市長が動くことによって、職員に方向性が見える。公務員は、市長の方向性が見えないと動かないという特性を持っているものですから、私自身が地域に出て、いろいろな声を吸い上げるように努めています。

また、協働を実感してもらうためには、その成果を見せなければならない。そうすればやっている人たちにもこれが協働だとわかってもらえる。

昔のように行政が万能で、行政の物差しで事業ができた時代ではなくて、事業をする物差しをもっと市民の方に持っていこうということが、私の基本的な考えでございます。

限られた財源ですから、より市民の意向に沿うようなところにお金をつぎ込んでいかないとならない。

この辺については、町内会連合会とも協議しながら、町内会の意見を吸い上げて、それを実践するようにしてきており、まだ完全ではないですが軌道に乗ってきております。

お集まりの皆さん方はまちづくりに熱心な方々ばかりですから、いろいろな意見を聞かせていただいて、今後砂川市が協働を進めていくうえでの事業の方向性を見出したいし、また、できるものについては、実践をしていきたいと思っておりますので、本日はよろしく願いいたします。

3. 自己紹介

- ・ 富士課長より市からの出席職員を紹介
- ・ 出席されている市民活動等入門講座受講者 17 名の方からそれぞれ自己紹介を受ける

○説 明

富士課長より懇談会開催の趣旨及び進め方、資料の「市民との協働によるまちづくりをめざして」について説明

4. 懇談会

◎懇談のテーマ 「市民活動等入門講座を受講して」、「市民活動等を活性化するために」

- ①グループ発表
- ②市民が求めている新しいサービスについて

※ はじめに市民活動等入門講座のワークショップにおいて、6 グループに分かれて議論した「砂川市の良いところ、良くないところ」、「市民自らが運営する第2市役所での新サービス」について、代表して2グループの方から発表を受けた

第1グループ代表者 ～ 私は7月に砂川に来たばかりで、このような大役を任せられるとは正直思っておりませんでした。

砂川市の良いところ、良くないところということですが、まずは良いところについてです。

砂川市とパソコンで検索して最初に出てくるのが、市民一人当たりの公園面積が日本一。人口は減少する一方ですので、この一位は揺るがないと思います。オアシスパーク、こどもの国、北光公園、流れのプラザのほか、小さなものも含めるとたくさんの公園があります。

オアシスパークや海洋センターではマリンスポーツもできますし、日の出運動公園でもいろいろなスポーツができます。「ゆう」や公民館での文化活動も盛んです。また、モータースポーツ、ジムカーナも行われていて、すごいと感じました。

次に有名な企業がある。北菓楼さんやナカヤさん、ローレルさんやソメスさん。本当に日本を代表するといってもいい企業があります。北菓楼さんはテレビにも良く出ていて、北海道のスイーツランキングの常連ですし、ソメスさんは日本で唯一の馬具メーカーです。この間、ケネディさんが使用した馬車もソメスさんの鞍でした。

次に病院や消防署です。中空知のセンター的なポジションで運営されています。人口だけでいけば滝川に負けていますけれども、北海道を代表するといってもいい病院をはじめ、設備がたくさん整っていると思います。

次に、良くないところについてですが、空き店舗が多い。人口も減っていますので、ある程度しょうがない部分はあるかもしれません。シャッターが下りているとどうしても寂しいので、シャッターに何か塗れないかと考えました。今週の土曜日にSuBACoのシャッターが白く塗られ絵も描かれていますので、今度見てみてください。後は、中心市街地活性化計画でもチャレンジショップということで、札幌とかに住んでいるけれどもお金がないので店を開けないという人のために、期間は短くして空き店舗を家賃を安くして貸してもらうことはできないかというようなことも考えています。

次に病院の待ち時間が長い。現在は待ち時間対策として、メールでのサービスや図書スペースがあったりして、待ち時間を短くするというよりは、待ち時間を退屈させないようにする対策はとられていますが、プラスアルファで何かできないかなとは思っています。例えば、ワークショップをやってみたり、塗り絵やお手玉、けん玉を教えたり、塗り絵を展示するスペースをつくったりできないか。

次に何回も言っていますが人口が減少しているところです。病院がありますので、看護師さんはたくさんいます。多分、独身の若い女性はたくさんいるはずなので、結婚してもらおうということで街コンと婚活パーティの開催、また、はしご酒というイベントがあるので有効活用をして、今は仲間内だけでグループをつくって、店をぐるぐる回るのですけれども、グループを事務局で決めて横のつながりを増やしていく。このようなことで人口減少に多少でも歯止めがかかるといい。このようなことを考えました。

次に市民自らが運営する第2市役所のサービスについてです。

お金はそれほどいらないけれども、手が空いているおじさんやおばさんが結構いると思います。その人たちをうまく活用できないか考えました。人材バンクの材を財で表現してみました。いわゆる財産です。その人の人となり、看護師や栄養士や教師いろいろな職業、資格もそうですが、その財産を市の

ために有効活用できないかなということ。このような資格をお持ちの女性のほか、そんな大層なものなくても手伝ってもらえる素人さんも含めて、要するに世話焼きおばちゃん、おじちゃんを活用する。仕事も定年されて、お金はさほど欲しくないが時間はあるので何かをやりたい。じゃあ何か困っている市民、世話を焼かれない市民に対して、世話を焼いてくれませんかという発想で、このようなネットワークがつくれればよいなと思いました。

後は市役所は何か堅いイメージがあるので、多少でも明るくするために歯医者さんのように音楽を流してみたり、市役所の外がいいと思いますが、目安箱を置いて要望を聞いて、できることは対応を図っていく。このようなことができればいいなと思いました。

第2グループ代表者 ～ 私たちのグループでは、砂川市の良いところについては、高齢者が元気で生き生きと暮らしているまちということになりました。どうして高齢者が元気で生き生きと暮らしているのかを考えると、5つのカテゴリに分かれました。

1つ目は、食べ物がおいしいということです。地元には有機農法や地元の果物を含めておいしい農産物がたくさんある。また、全国的に有名なスイーツのお店もたくさんあるので、地元でつくられた安心な食べ物をもりもり食べることができるので、高齢者の方も元気になっているということです。

2つ目は、地域の中核病院があるということです。市内のかかりつけ医と地域の中核病院という施設が整った砂川市立病院があることと、その双方の連携も取れているので、急に体調を崩した時も地元の病院に安心してかかることができるので、高齢者が安心して暮らすことができる医療体制があるまちということです。

3つ目は、自然が豊かであるということです。砂川には遊水地やこどもの国、北光公園のほか、身近に小さな公園がたくさんある。高齢者にとっては、自然を楽しみながら穏やかに暮らすことができるまちであり、子供にとっては、自然の中でのびのびと育つことができる恵まれた自然があるまちということです。

4つ目は、交通の便が良いということです。JRの特急が停まる、札幌、旭川に行くのも高速バスの本数も結構あります。また、平成27年度にはスマートインターチェンジの開業を控えているということで、道内各地に観光や買い物に行くにしても結構便利が良いということです。ただ、市内のバスは本数が減っているので、市の方で実証実験などいろいろ改善策を検討していただいているところではありますが、市外に出かけるというところでは、とても便利が良いので、高齢者の方も気軽に遠出ができるということです。

5つ目は、市民活動が活発であるということです。公民館や「ゆう」などで、年間を通していろいろな活動があるので、高齢者の方も外に出やすい環

境がある。また、行事やイベントを通して世代間の交流をする機会もあるので、高齢の方も若い方に接する機会が多くて気持ちも若返るというところに集約されていきました。

ただし、ここがもっと良くなれば、もっと元気に暮らしやすくなる例として、3つにまとめてみました。1つ目は、豊かな自然をもっと活用したいというところで、春と秋に白鳥が飛来する水辺があったり、フクロウやリスに出会う確率の多い公園があるとか、季節ごとに写真撮影に最適な素敵なポイントがありますよというお話など、ここを上手にPRできていないのではないかと、近くに住んでいる方は、知っていても他の方には意外に知られていないことが多いようです。もっと自然や美しい景観を積極的にアピールできれば、元々交通の便は良い地域にありますので、札幌や旭川などの大都市圏からも1時間そこそこで来られる場所にありますから、気軽に身近な自然を楽しんで、おいしい食事とスイーツをいただいて、ついでにおみやげも買って帰っていただくということで、市外の方が集まっていたければまちに活気も出るのではないかとということです。

2つ目は、買い物や食事をする店が少ないところで、最近電気屋さんがなくなってしまうたり、遅くまで営業している食事のお店が思いつかない。少しタイミングがずれると砂川市内で食事をする店が探せないのが、隣町に行ってしまうことも多い。どこにどのようなお店があるのか、何時まで営業しているかというような情報があるとわざわざ市外まで行かなくても砂川で食事をするところを探せるのではないかとということになりました。

3つ目は、市民はあまり気にしてないけれども、全国的に有名なスイーツのお店や企業がある。市外の人には有名なスイートロードや北菓楼、ソメスサドルがありますが、市民が意外と知らなかったり、あまり関心を示さなかったりということもあるように感じました。

私も今回の講座を受講する前まで、市外の人に砂川市をアピールするポイントというものを特に意識したことがなかったことに気が付きました。それで、砂川市民ならではの特典、例えばスイーツの新製品ができたなら、無料とか半額くらいで試食ができるとか、新しい商品をつくる時のアイデアを募集して応募したらそれに近いものができるなど、何かそういう特典があったりすると市民の方が地元に関心を持ってくれることになるかなと思います。そうすると市民一人一人が砂川市をアピールする営業みたいな感じで広がりが出てくるのではないかと感じがしました。

続いて、第2市役所での役割といたしましては、こちらに書かせていただいた「探す」「伝える」「繋ぐ」という3つの機能をトライアングルに結びつける役割を担うようなことを考えました。

砂川は皆さんからの意見にもあったとおり、自然が豊かでおいしい食べ物もたくさんあって、地域で積極的に活動している人も多い。それぞれの分野

では、活発に活動しているけれども、それ全体が繋がっていない。また、そのことを知らない市民も多いということで、連携が取れていないように感じました。

そこで第2市役所の役割として、1つ目は、市内にある問題や市民が意識している課題を探す。それからいろいろな能力や経験のある人を探す。そして、様々な活動をしている団体や企業を探し出す。この探し出す機能を第2市役所に一定の権限を与えて担ってもらわなければ難しいところはあるとは思いますが、そういう役割を担ってもらおう。

2つ目の伝えるという役割は、探し出した課題や人、団体、企業の活動を市民に伝えるということと、市外に向けても発信する。

そして、3つ目が市内で活動している人と人、団体と団体、人と団体を繋ぐことによって、共通の意識を持った砂川市民が互いに連携して、協力して課題を解決しようという意識が高まるように、第2市役所がコーディネーターする、繋ぐという役割を担ってもらってはどうかと考えました。

このような仕事は、砂川市全体の情報を把握することができない個人やなかなかこのことで勇気が出てこないということであれば、一般の企業の方も手が付けられない分野だと思いますので、この「探す」「伝える」「繋ぐ」という機能を第2市役所で担ってもらおうと、砂川市内の人、物、頭脳などたくさんある財産を有効に利用できるようになるのではないかと。そうすると今よりも住みよくて安心して活気のある砂川になっていくのではないかと考えました。

市長 ～ 第1グループと第2グループから発表していただきました。最終的に2つのグループに分かれて議論をして、最終的に皆さんの総意でこのような形で発表という形になったということですよ。

それでは、これをテーマにして懇談に入っていきたいと思います。

まずは、きっかけとして私がコメントしてから進めていきたいと思います。

第1グループの発表をしていただいた方は、地域おこし協力隊として砂川市に来られた方で、北海道を知らない方にこちらに来ていただいて、砂川の良さを見つけていただき、その情報を発信してもらおうという目的で来ていただきました。地元にいる方々は小さい時から見ているものだから、当たり前のように思っていて良さを気づかないというか、当然のように見ておりますけれども、道外から来ると新鮮に映るということで、砂川市がこれまで行ってきたものが、順調に発表された形になっております。

やはり、誇れるのは病院でありまして、中空知5市5町のセンター病院から、今は空知の病院になる勢いで、他の病院は医者が減っていますが、砂川市立病院は医者もまだまだ増えそうです。人が人を呼ぶといいですか、施設が人を呼ぶような形になっております。先ほど発表でありましたが、砂川は

交通アクセスが非常にいい。この12号線沿いにある砂川は高速道路も通っていて、JRの特急も停まる。札幌までも1時間程度で行ける環境で、交通アクセスが恵まれているから余計、医者が来る。今は91名ぐらいおりますけれども100名ぐらいまで近々届きそうな勢いです。

素晴らしいところは、救命救急センターですから、他の病院にはない救命医が常に常駐していて、いつでも受け入れる体制ができているのは、道内でも札幌、旭川、砂川だけです。そういう病院です。

私は人口減少対策としては、北菓楼でまた50人ぐらい採用するのですが、砂川に住むようにしてくださいとお願いしています。その代わり市の方から建設費を補助しますというお話をしています。

なぜ、若い人が砂川に住まないのか。ファーストフード店がない。先ほども発表の中で食事するところがないというお話もありましたが、若い人の目から見ると砂川にはそういうものがない。住みたくないとなってしまう、滝川から通ってしまう。北菓楼でも200人ぐらいの従業員が滝川から通っています。滝川から会社まで近いということもあるでしょうけれども。ファーストフード店などがないものですから、若い人にとって魅力がない。若い人向きのまちではないのですね。この辺では唯一滝川にはそういうものが揃っているのです。滝川に住みたいとなるので、それを強制的に変えるとなると社長が砂川に住んだら家賃を助成するようなことをやってくれており、そのような方法で若い人に砂川に住んでもらうようなことをしております。

また、うちには看護師さんが5~600人いますが、やはり男性が少ない。一番効果があるのかもしれませんが、行政が婚活パーティーや街コンをやっていいものなのか躊躇しますけれども、民間でこれをやって、市外の男性を砂川に連れてきてくださいということは言ったことはありますけれども、まだ行われてはいません。こういうことが行われればもう少し若い人が砂川に定着してくれるのではないかと思ったりもしています。若い看護師さんの話を聞きますと、まちに魅力がない、若い男性がいない、やっぱり札幌に住みたいという意見が偽らざる気持ちのようです。

今の若い人はなかなか結婚しないですね。

人口が減少していることは、やはり課題として、ここを何とかしていくのは行政の役割だと思っています。

SuBACoでいろいろ情報発信もしたり、市も助成したりしていますけれども、空き店舗が増えています。助成しても歯止めをかけるのはなかなか難しいというのが現状でして、バイパス沿いの大型店や、旭川、札幌に買い物に行ってしまうのも現状です。交通の便がいいということでこちらに来るよりも出て行く方が多いという違う面もあるということです。

なんとか砂川のまちを病院を中心に魅力を出すようにできないだろうかということが、私が一番今考えている課題の一つです。

砂川の行政は伝統的に情報発信がすごく下手です。私が言うのもおかしいことですが、ホームページを見るたびに、どうしてももっとこうしないんだと言っていますけれども、広報も忙しいようです。私自身も含め伝統的に情報発信が下手なのです。もう少し広報に人を増やしてでも情報発信するようにしないとならないのかなとも思っています。

発信の役割は、地元の人には当たり前に見えていますからどのように発信していいのかわからない部分もありますので、違う目を見た人がすごさを発信しなければならぬのではないかとということもありますので、地域おこし協力隊の皆さんには期待しております。

うちの広報、ホームページも大変素晴らしいのですが、もう少し砂川の魅力を発信するコーナーを設けながら充実を図っていきたいと思っています。

市外の方はそのまちを調べる時、必ずホームページを見るそうなのです。私も視察に行く時には、ホームページを見てどのようなまちなのか調べます。ですから、これからの時代はホームページでの市外に向けた情報発信が非常に重要だと思っています。

次に第2市役所のお話ですが、地域での見守りとかについては、地域包括支援センターを中心に社会福祉協議会や町内会や行政などが手を組んで、地域の高齢者を見守りしましょうということでスタートしていますけれども、市や地域包括支援センターだけではどうしてもいずれ限界が来てしまいますので、どちらかというところと発表にあったような形の専門職の人や相談に応じられる人、特に市のOBは行政を経験していますので、相談に行ったときにすぐに、これはどこの課に行けば結論が出せるとか、解決できるということがわかるので、そういう人たちと一般の人たちが一緒になって、これは人材が多くないと対応できませんけれども、それぞれの地域の中の要望を橋渡しする役割の組織をつくって、NPO法人化できないだろうかというのが私の最初の発想でした。

これから、見守りの仕組みをつくっていかうという時に、同時にこれを言ってしまったものですから、市の内部も他の団体も混乱しまして、時期尚早だなと感じました。今の見守りの体制や災害弱者の関係が定着、浸透した後にはこのようなことを考えていかなければならないと思っています。

例えば、電気のブレーカーが落ちて停電になったと勘違いして困っているおばあちゃんや電球を取り換えたいけれどもできない人がいて、市役所に連絡が来たような時に、このようなNPO組織があればそこに連絡をして対応をしてもらおうというようなことを当時発想していました。

このようなことを一遍にやろうとしたものですからなかなか難しく、しっかりと手順を踏んで、協働とかを皆さんに理解してもらったうえで、こういう形を進めていかないと駄目だと感じましたので、行く行くはこのような形

に持っていきたいなと思っていますし、これが私の本当の狙いで、市長になった時に最初に言ったことがこのことでした。ただ、理想論過ぎて、皆さんの中に土壌がないのにこのようなことを言ってしまったので、何を言っているのかさっぱり理解されず、市長は何か大変なことを押し付けようとしているというようなハレーションが起きてしまいました。

これを本当のボランティアでやるのがいいのかという点は、ボランティア団体の皆さんにお話を聞きますと、本当に無償で継続できるのだろうか私迷っております、人件費をそのまま出すということではなくても、多少の何かがないと継続させるのは難しいのではないかと考えています。

いつもボランティア団体の方々を勇気づけるために、意識してお伺いし写真を撮って、こんなに頑張っていますとブログで紹介しながら、モチベーションが上がるようにしているのですけれども、なかなか難しいなと思っております、やはりこういう何かがないと本当にもつのだろうかというのが、3年間団体の方々といろいろ話をしていて気になるところです。

ですから、このような案がだんだん市民の間から出てくるようになったのだなと嬉しく思います。

私もいろいろ勉強をしているうちに、このような仕組みがないとこれからの高齢化時代は対応できなくなる。このような仕組みを皆でつくり上げていって、いかに浸透させて実践をしながら、自然とこのような仕組みになっていくように持っていきたいと思っています。

次に第2グループの発表についてです。まず、宣伝の部分ですが、いろいろなイベントなども含めて、観光協会にホームページを充実して情報を発信してもらおうように話をして、徐々にそうなっています。市のホームページにも限度があって、あまり写真を載せると動作が重たくなってしまいますが、この点についても何とか一緒になって市の良いところを発信していきたいと思っています。ただ、いろいろな部署に注文を付けるのですが、市長が言っても皆忙しくてなかなかそうならない部分もあります。しかし、徐々にでも変えていかないと私自身も行政マンでいましたから、砂川市が宣伝が下手だということは、よく分かっていますので、このような意見があることも踏まえまして、ホームページなどを通してコメントやいいフレーズなどを入れながら紹介するようにはしていければと思います。

スイートロードはある程度有名になって、千歳空港でも北菓楼の黄色い袋を持った人によく会うものですから、全国ブランドになってきています。北海道の中でも超優良企業に成長していて、若い従業員もどんどん雇っていますので、そういう若い方たちに砂川に住んでいただいて、人口の減少に歯止めを少しでもかければと思います。地元の元気な企業を応援し、砂川に住んでもらえるようにタイアップしながら、人口を増加させるのは難しいです

が、減少を止めるような方策を講じることができればと思っています。

砂川市の良くない点で温泉がないという意見がありますが、私は温泉はつくりたくない。どこの市町村の温泉も赤字で、一般財源から繰り入れをしてひどい目に合っていて、砂川がつくってしまうと少ないお客の取り合いになってしまいます。今の時代、全ての市町村が同じような施設を持って運営するのは不可能で、スキー場は歌志内にして皆で利用して持たせましょう。病院は砂川というように近隣市町間でしっかりと役割分担をしていかないとならない時代だと思います。

砂川に温泉をつくってしまうと運営費でたくさんの赤字を出すことになります。あった方がいいのはその通りですが、そのお金は違うところ、違う政策に投入していった方がいいと考えていますので、正直温泉はつくる気はないです。近隣の市町と役割分担をした方がいいのではないかとというのが、私の考えです。

食べ物がおいしい、お菓子がおいしい、ドクターヘリもある。その通りですね。

イベントについてはもっと宣伝したほうがいいのでしょうかね。砂川には小さいものも含めるとたくさんイベントがあります。やはりイベントは数多くある方が、地域の活性化につながると考えています。今年、千人踊りが復活しましたが、あれは青年会議所の有志が手弁当で、担当した方は半年間仕事もしないで、走り回ったと聞いています。私のところに相談に来た時も行政でも苦勞をしたのだから民間の人がノウハウもなしにやるとなると無謀だと伝えましたが、若い人は無鉄砲で勢いがあるから成功したのだと思います。

参加した高齢者の方々はすごく喜んでいました。青年会議所はいいことをやるな。どうして行政はやらないんだと言っていました。昔、千人踊りはお祭りに合わせて行うので平日になることも多く、事業所などでは段々人を出すことができなくて参加者が減っていきました。自然に参加者が減少していくうちに民間団体の方がもうやめましょうとなって、やめた経過がありますので、行政がもう一度やりましようとは言えない状況もありました。私も踊らないつもりで挨拶だけと思っていましたが、行くについつい踊ってしまいました。こういうところを見ると砂川もまだまだ捨てたものではなく、若い人は良くやってくれたなと感心しています。これからは、若い人たちだけでなく、皆さん方のようにいろいろな分野で動いてくれている方々がおりますので、もっともっと元気を出していただけると砂川はもっと良くなってくるのかなと思います。

次に第2市役所の方ですが、「探す」、「伝える」、「繋ぐ」。この「繋ぐ」に関しては、砂川市はまだトータルで繋がっていないということですかね。後で、ここの部分をもう少し具体的に教えていただきたいなと思います。

人の部分では、教育委員会でも人材バンク的に高齢者の活用でいろいろな事業を行ったりしていますけれども、行政として参考にしていきたいと思いますので、その辺をもう少し具体的にお話しただければと思います。

高齢者が元気に暮らせるという点については、新年度の予算の中でももう少し手厚く予算をつけて、高齢者がいつまでも元気でいられるように、地域を回っていろいろ指導できるような方を新年度から配置していこうかと考えています。この部分にこれから一番力を入れていかないと、高齢化が進む中では自治体は、砂川市は生き残っていけません。自治体にとって大きな課題であり、私の頭の中でもこのことが常に中心にあります。

ですから、この地域交流センターゆうで新しい文化ができたり、いろいろな方が参加して元気になっているというのは素晴らしいことです。市民会館は行政が運営していて、貸館しかやっていないで文化が育ちませんでした。ところが、「ゆう」をつくって民間の方が主体で運営すると使い勝手がいい。公務員のようにうるさいことを言わない。自由に使える。公務員が施設を運営したら駄目なのです。ノウハウもないし、条例でこうなっているから駄目ですと固いことしか言わない。私自身は行政は基盤整備で物をつくるだけにして、運営は企業や民間の人たちが自由に使い勝手がいいように運営してもらった方が、「ゆう」のように機能するのではないかと考えています。

まずは、発表を聞いての私のコメントについては、この辺にしておきたいと思います。

この後の話の取っ掛かりとして、「繋ぐ」の部分について少しお話をさせていただければと思います。

出席者 ～ いろいろな活動があるということが今回の入門講座を受講してわかったのですが、逆に知らない活動をされている方がたくさんいるということがわかったので、その辺の情報を探して、発信して繋げていく作業をできればいいのかなということです。

市長 ～ 私がなぜブログをやって、呼ばれていもない団体のところに行って、こういう活動やボランティアをしている方々がいるのですとブログで紹介しているかという、モチベーションを上げてもらうことと皆に知ってもらうためなのです。それで時間が空いたらボランティア活動をしているところに出て行って、写真を撮って少し取材をして、活動をしている方々を紹介してその方々のモチベーションを上げようとしたのです。それをもっと正式で紹介するような役割を行政が担えばいいということですね。そういった広報などの伝達方式は行政しか持っていないわけですから、そういうことをやればいいのですね。

出席者 ～ 高齢の方ですとなかなかパソコンが使いなかつたりもしますが、手段がたくさんあればいろいろなところから情報が入ってくると思います。一つの手段だけですとそこを見る人だけしか、その情報に辿り着かなくなります。

市長 ～ 私も体が一つでこんなことをしていると持たないなと思っていますが、私も行ききれないところがあるのです。いろいろな活動を全部把握できているわけでもないですし、そればかりをしていると他の肝心なものができなくなりますし、把握できているものは出て行って写真を撮りながら活動内容を紹介するようにしていますが、問題は確かにそれぞれの部署ではやっていますが、それを繋げる場所、部署がないですね。

出席者 ～ それで、この市民が考える第2市役所でこのような機能があればというところに話が行きました。

市長 ～ やはり行政がやるべきなのでしょうかね。

出席者 ～ 市役所が何でもかんでもやるのは大変だと思います。だから協働だと思うのです。私たちが議論した時には、例えばシルバー人材センターだけではなく、若い方でも能力を持った方がたくさんいるわけです。あるいは公民館などを使用して文化活動を行っている方々もたくさんいますが、自分たちは楽しんでいますがそれ以上は広がっていないと思うのです。

市役所は一番最初の取っ掛かりのために、声掛けやお膳立てをして、ボランティア団体やいろいろなグループを繋いであげる。一堂に会する場をつかってあげるなどして連携して動いていけるようにしてあげる段取りは行政しかできないと思います。それをして欲しいです。

市長 ～ そうですね。

出席者 ～ 私は大阪にいる時から北海道新聞のウェブを見ていました。記事の切り方が好きなので、北海道に来たら必ず北海道新聞にしようと思って、今は取って毎日見ているのですが、空知版に載る砂川市の記事がすごく少ない。新聞は記事を埋めなくてはなりませんから、こんなものでも記事になるのかというものがたくさんある。特に深川市や岩見沢市、滝川市の記事が多い。これはやっぱり行政の宣伝だと思います。声をかければ記事にしてくると思うのですが。砂川はあまり声をかけていないということでしょうか。たまに記事になっているのは病院で実施するがんのセミナーくらいしかないように感じます。深川は特に多く感じます。

市長 ～ 深川はすごく多いですね。砂川は支局が廃止されてしまって、芦別、滝川、深川に支局があるのですが、支局があるところの記事が優先されるようです。

出席者 ～ 砂川にはここ数年、通信員がいないですよ。

市長 ～ 砂川にも支局があった時は結構記事が載っていたのですが、支局が統合されてからこのような状態になっています。私どもも商工会議所と一緒にあって、記者と懇談会をする時にはお話をしているのですが、結局、支局のあるところの記事が優先で、砂川市も広報からたくさん記事も写真も送っているのですが、なかなか採用されていないのが現状です。

出席者 ～ 通信員が前にいた時には結構記事が載っていましたよね。やはり通信員がいないというのも要因の一つかなと思います。

出席者 ～ 宣伝が弱いのかなと思っていました。

市長 ～ 記事が載るかどうかに関しては宣伝ではないですね。市長の力がなくて申し訳ございません。総務部長時代は行政の仕事以外のプライベートのところで記者と仲良くなって、記事を書かせてもらったことも何度かありましたが、市長になるとなかなかそうもいかないところもありますが頑張ります。

出席者 ～ わかりました。

市長 ～ ご意見のありましたいろいろな団体やグループを一堂に会するという事は、行政でないとなかなかできないですね。以前に何かのイベントの時にボランティア団体に集まってもらって、宣伝活動をしてもらおうかと考えて、団体に当たってみたりしたこともありました。そういうものを企画してみたいと思います。まずは繋がるようにして、そこからまた何か生まれてくるかもしれないですね。

今、地域包括支援センターの方々は、仕事の関係で保険や介護の方々と集まって連携を取っているのですが、そこに医療が入ってくると砂川市も完結型になるのです。今は病院、医療が入ってきていない。ここに医療が入ってくると、医者も含めてトータルで地域を見れるような、いわゆる在宅医療、リハビリなどを全部兼ね備えると、本当に高齢者が安心して生活できるようなシステムになると思います。このようなシステムができそうなのは北海道内では砂川しかないです。

大都市の病院はそのようなことはしません。ちょうどいい人口規模と施設

もあるような土壌を持っているのは北海道に言わせると砂川ぐらいだそうなのです。それで砂川がモデル的にやれないだろうかということで、院長も重い腰を上げて在宅医療の手前の話し合いのところまで、今やっと来ました。それで私も広島に行って先進地を視察してきました。いつまでも元気で生活できること、地域全体で見守りをする、後は専門職が集まって横の情報を繋げながら、どうやって寝たきをなくすとか認知症対策も含めながら、トータルでケアするようなシステムをつくっていくと、北海道の中で砂川市が一番の先進地になります。病院を持っている砂川の特性を活かして、こういうシステムができればなと思っています。

やはり女性が元気だというのは、いろいろなところに出てきていますものね。どこの会合に行っても女性ばかりです。元気でいいなと思いながら見えています。やはり外に出てくると元気になるのです。男性で出てくる方は尊敬に値しますけれども、女性は当たり前のように出てきますので、ストレスをためず元気よくなりますよね。男性の思考形態と違うのでしょうかね。男性は理屈から入って物を考えるから駄目で、女性は理屈ではないって誰かがお話されていました。

男性ももっと社会参加してくると元気が持続すると思うのですが、何十年も会社勤めして疲れ切って、社会貢献意欲もなくなるのかもしれないけれども、女性はどんどん外に出てきて、話をしていますね。

司 会 ～ せっかくの機会ですので、参加されている皆さんからも発言していただきたいのですが、例えばNPO法人をつくって「すずめ焼」を復活しようですとか、こどもの国の隣に「おとなの国」をつくろうですとか、聞いていてすごく楽しい、もしかすると何かのヒントになるのではないかというお話が、ワークショップの中で出ていたと思います。そういうお話もこの際ですのでどんどん市長にお伝えいただければと思います。あるいは普段職場を通して感じている砂川のことですとか、普段活動をしていて気づいたことなど、この機会にご発言していただければと思います。何かのヒントになれば、それが施策に繋がっていくこともありますので、どんどんご発言していただければと思います。

市 長 ～ 「すずめ焼」も集まって何かをするという一つのきっかけなのでしょうね。「すずめ焼」は砂川の特産品でした。漁業権を持って、北光公園のフナを加工したのですが、坂さんという方が年齢的にやれなくなってやめてしまいました。それをまた復活させるのを契機にして、皆で集まりながら次のものを見出していくためのきっかけみたいになればいいですね。何かテーマがなければ人が集まるということも難しいですからね。おそらく

そういう話が出たのでしょうか。

出席者 ～ これは1グループで出たお話です。私が砂川に来たときには「すずめ焼」というものがあって、本州に出張に行こうとすると、来るのなら「すずめ焼」をよくリクエストされました。確か注文を受けてからつくってくれて、よく持って行った記憶があります。

砂川の名物として「すずめ焼」が載っていて、作り方は載っていなかったのですが、なんか面白いなと思います。今は遊水地にフナがいますので、それこそ「獲る人」「つくる人」「売る人」が集まって復活できたら楽しいなというお話になりました。

司 会 ～ 普段、絵手紙や襖展など、精力的に活動されている立場から、ワークショップの中で出た話や何か伝えたいことがあればご発言いただきたいと思います。

出席者 ～ 襖展を実施したことで、私もいろいろな分野の方々と近づきたい、仲良くなりたいということがあって、いろいろな分野の方に参加してもらいましたので、かなり繋がりができました。

先ほど広報のお話も出ていましたが、私のブログには、知っているもの、気づいたものがあれば砂川の催しを全部載せています。

後一つ、いろいろな文化の団体がありますが、その上に一つまとめる団体をつくれれば、もっと大きな動きができるのかもしれないなと思っています。要するに文化祭の実行委員会の代表、グループサークルの代表、文化協会の代表、千人踊り、伝統文化の団体などもありますので、そういった団体の方々がまとまって一つの組織をつくって、団体とは無関係の有志の方々も含めて、砂川をどのように発信していくかなどを議論できれば、もっともっと大きいことができると思います。

市 長 ～ 文化協会ではない組織ですか。

出席者 ～ 文化協会ではないですね。もともと文化協会はなぜできたのかわからないですけども、多分いろいろなグループ活動している中でもっと皆で向上していこうということだと思うのですが、そういうようにはなっていないと私は思っているのです。それでもっとそのグループたちが集まって組織をつくったほうがいいのではということです。

市 長 ～ 文化協会の枠を越えた人たち、例えばボランティアであったり。先ほどそのような機会をつくれるのは行政しかないと言われたのでいろいろ考え

ていました。

出席者 ～ それに類するような既存の組織はあるのですか。

市長 ～ 文化だけの団体はあるのですが。

出席者 ～ 教育委員会のほうで動くのではないかなと思っています。

市長 ～ 教育委員会ではない分野の団体も入ってくるので、そういう機会をつくるように先ほど言われたので、一度そういうものをイベントの時に併せるのがいいのか、単独で行うのがいいのか考えていましたけれども、どこかでその機会をつくろうかと思っています。民間の方々が自由にやるとうまくいくのですが、行政が入るとなんかギクシャクするときもあるので難しいですよ。

出席者 ～ 立ち上げだけです。行政が継続してするという事ではないです。

市長 ～ それはわかっています。それは文化だけのことだけではなくて、ボランティアなども含めたものですよ。それは教育委員会の範疇ではないので、こちらのほうでいろいろな団体に趣旨賛同してくれるのかどうかあたってみます。

要するに横の繋がりを持ちましょうということですよ。皆が何をやっているのかわかるようにしておかないと個別にそれぞれ行っている活動ってなかなかわからないですよ。全体像を掴んでわかっているところ、窓口がないってことですよ。今はトータルで管理されていないから情報発信もバラバラでホームページに載っているものもあればそうでないものもある。それが情報発信の弱さに繋がっているということなのかもしれません。そういう機会を設けたり、トータルで管理することによって、トータルで情報発信できるとか、今は個別でバラバラに活動しているものが横の連携が取れるようになるのかもしれないね。

この点については、福祉の分野も同じなのかな。それぞれが一生懸命活動しているけれども、連携が取れていない部分もあって、活動について行政が情報発信できていないということなのではないでしょうか。

出席者 ～ 病院ボランティアの方は自由だと聞いています。この日とこの日は出番というのではなく、自分の行ける時だけ行くという仕組みだと。

- 市長 ～ 病院は自由にはしているのではないですかね。
- 出席者 ～ そうだとすれば誰も来ない日もあるということでしょうか。
- 市長 ～ 行ったら必ず誰かいますけれどもね。
私がかえって自由だからこそ皆が来ていると思いますね。勤務のようにこの日とこの日は誰とか、調整したりとかなると面倒くさいことになるので、自由にはしているからこそ続いているのかなと思って見ていました。
- 出席者 ～ 継続できなかつたら意味がないですからね。
- 出席者 ～ 多い時は結構いらっしゃいますね。少ない時でも最低3～4人いらっしゃいますね。
- 市長 ～ 割と自由にやれるようにしているのでしょうかね。あまり縛り付けてしまうとボランティアではなく勤務だということになるのかもしれないね。ボランティアはやっぱりボランティアですからね。市長になってから色々なボランティアの活動を見ているんですけども、メンバーも大体共通していて、ここでもあそこでも活動に参加していて大変だなと思いついていました。自由度があればまだいいのですが、この日は必ず参加と割振りしてしまうと仕事みたいになってしまいますから、ボランティアでないような感じになってしまいます。ただ、実際には配食サービスなどは完全に割振りされて当番のようになっていますので、大変だと思いますね。
- 司会 ～ 福祉分野の方で、普段感じているようなことが何かあればご発言をいただければと思います。
- 出席者 ～ 先ほど発表された「世話焼きおばちゃんバンク」というのが、すごく興味深かったのですが、それぞれの専門家のOBの方々が、昔取った杵柄で活動していくというのは、介護予防にも繋がるのかなと感じました。
先ほどお話のあったボランティア活動のモチベーションの部分で言いますと、砂川市にはいろいろな活動をされているボランティア団体があります。認知症であれば「ぼっけ」の活動であったり、病院のボランティア、家族会があったり、ふれあいサービス、除雪サービス、配食サービスなどもあります。そのようにボランティアをしてくださっている方々が一堂に会しながら、自分たちはこんな活動をしているんだよというPRであったり、エピソードを話してもらえそうな場所があったりすると、それが活動のモチベーションに繋がっていくのかなと感じます。

市長 ～ 日の目が当たるように一度、団体を集めようとして昨年だったと思いますが、声をかけたことがありました。モチベーションを上げる方法として、このような活動をしていますよと宣伝しようと思っていました。「ゆう」の2階のこどもゾーンなど、空いた時間があれば様子を見に行き、ブログで紹介するようなことをやっていますけれども、私の時間もなかなか空かず、きりがいい部分もありますので、一堂に集めて紹介をしながら交流しようと考えましたけれども、組織が大きくなると難しいところもあつたりしまして、単体の会だけなら簡単なのでしょうかけれども、いろいろ集まるとなると簡単ではないのですね。でもなんとかしなければと思っています。

出席者 ～ 「ゆう」でいろいろなボランティア活動をされている団体の写真を撮って取材をして、展示しようかという話までは出たんです。そういうことですよね。

市長 ～ そういうことです。モチベーションをあげながら、会員募集や横の連携などに繋げていけるようなことができればいいですね。

更生保護女性会、婦人ボランティアクラブ、病院ボランティア、子供を預かるボランティアなどいろいろなボランティアをやっているの、一堂に会するといってもなかなか調整がつかないところもあるとは思いますが、イベントの時に一回、会員募集のための活動内容などの紹介コーナーを含めてブースを出してもらって、担当者の方に宣伝活動を行ってもらおうというのが元々の発想でした。そうすれば来場した人に、いろいろなボランティア団体があることを知っていただけますので、ボランティア団体だけであればなんとかやれるのではないだろうかとは思っているのです。

出席者 ～ 私は「ゆう」の2階のこどもゾーンに来ています。名簿上はたくさんの方がいますが、実際に出てきて協力してくれる人は本当に少ないです。

市長 ～ 活動を紹介するために伺ったことがありますけれども、子供相手に本当に大変ですよ。

出席者 ～ その辺の大変さなどはなかなかわからないですよ。そこで活動されている方々はもちろんわかりますけれども、私たちのように仕事をしていたりするとそういう活動をされていること自体もあまり伝わってきません。

市長

～ 子供を預けているお母さんたちが知っているぐらいで、一般の人はわかっていないでしょうね。私もいろいろな団体にお伺いしてブログで活動を紹介していますが、全部を紹介しきれぬわけでもなくてなかなか難しいですね。

ボランティアも生きがいでやっている人もいれば、割り当てで来ている人もいたりして難しいですね。自由にやれるならいいのでしょうけれども、何曜日のこの日は来てねとなるとボランティアなのかボランティアではなくなるのか。

その辺が難しいので、「世話焼きおばちゃんバンク」も機能させるためには、相当多くの方に参加してもらわないとならないでしょうね。どちらかというと自由に気楽な感じを出して、多くの人に登録してもらう方がいいのかもしれない。

配食サービスも人数が少ないと勤務表みたいになってしまっています。そうなるこの日はもう他の用事を済ませないとなってしまいますので。ですから、「世話焼きおばちゃんバンク」も多くの人に登録をしてもらって、その中から指令センターのようなどころからの要望に応えられる人が、すぐに動くという仕組みがいいのかもしれない。

地域包括支援センターの役割のところは、包括にしっかり担ってもらって、そうではないブレーカーが落ちたですとか、物が倒れて起こせない、電球を取りかえることができない、買い物ができずに困っているなど、高齢化が進めばこういう問題がたくさん出てくると思います。そういう軽微なものは、「世話焼きおばちゃんバンク」のようなどころで支えていくような形をつくらないと本当に将来的に暮らしにくいまちになってしまいます。

今、町内会長さんや民生委員さん、社会福祉協議会、地域包括支援センターを含めて進めている高齢者の見守りや災害弱者の関係がある程度形になった後には、こういうものの対応はこういう組織に担ってもらえるような、高齢化時代でも小さな不安などはここでケアできるようなシステムをつくることも行政の役割だと思っていますので、次はこれに手をつけていければと考えています。

市の職員をしていた人はいろいろな部署を経験しているので、この問題であればここに聞けば解決するということがわかるなど割と重宝と思うので、市のOBを中心に得意分野をお持ちの一般の皆さんにも活躍をしてもらって、ある程度の数がいれば、それほど拘束されずに済むのではないかと思います。本当は市の職員を一人配置することも考えました。

先進地の例からいくと、砂川市の人口規模であれば職員一人の配置で可能のようですが、先進地でも配置された職員は2年経つとへとへとになって異動させていると言っていましたから、一人の配置では無理だと判断しました。ですからこちらの方法を活用して、数多くの方が登録してくれ

ば個人個人の自由度も増しますので、継続して機能させることができるのではないかと思います。これは私も頑張って何とかしたいと思っていることです。

元気な方は外に出てくればいいのですが、出てきてと言っても性格的に絶対に出てこない方も必ずいるものですから、高齢化時代が進んでくるとこういうところでケアしなければならない方々が増えてくる。

出席者 ～ この「世話焼きおばちゃんバンク」では、有料、低料金と書いてありますけれども、もし仮にこの中で教師や看護師、保育士などにお世話になった時には、お世話になった人たちは低料金かもしれないですがお金を払うということでしょうか。

市長 ～ 組織自体は必要だということで、お金をどうするかということはまた別の話ですね。お金を取らずに市がある程度その団体に助成するなどいろいろな方法を検討してみないと、お金を取るのがいいのか悪いのかは一概に言えませんね。ただ、ボランティアの方々に本当にタダで活動してもらっているのが正しいのかどうかは、個人的には常に疑問に思っています。

出席者 ～ やはりボランティアは有償、交通費ぐらいは出るような形にならなければ続いていかないと思いますね。

市長 ～ ボランティア団体の方々と話をするとなんとなくそう感じます。ボランティアが当たり前のようにタダというのはおかしいとは思いますが、給料があたるとかではなくても、何らかの手立てがないと続かないですよ。

出席者 ～ 「ゆう」の場合は、1時間1枚とか2枚とか、エコカードを発行している。これを貯めておいて演劇、音楽など「ゆう」で主催の行事に使えるようにしています。

市長 ～ エコマネー。地域通貨というものです。

司会 ～ やっと議論も温まってきたところ申し訳ありませんけれども、そろそろお時間の方も経過してまいりました。今日は市長に対して、皆さんの方からいくつかヒントになるような提言がされたと思っております。最後にどうしても発言したいという方がいらっしゃればお受けいたします。

出席者 ～ 高齢者が元気にすごせるまちということで、第2グループではそれを図に示しました。元気な人は外に出れますけれども、出られない人もいます。

ボランティア団体やいろいろなグループや人材バンクのような仕組みをつくって、得意分野を活かして活動をしてもらうのはいいことですけれども、私はグループの中で人と人、人と団体、団体と団体を繋げることが大切というお話をしました。地域包括支援センターや社会福祉協議会、いろいろなボランティア団体などもありますが、皆さん地域で住んでいますから、一番身近な団体は町内会です。一番身近な町内会にも情報発信をしてもらいたい。せっかく人材バンクなどを発足したとしても、その情報が町内会の役員などに伝わらなければ、地域で困っている人に聞かれても、こういうところがあるから電話したらいいよと教えてあげられない。今もいろいろな団体が個別に活動していますけれども、やはり横の繋がりをつけてあげなければ広がっていかないと思います。

市長 ～ そのとおりですね。そのことは私もわかっている、そのような形になるよう取り組んでできているところです。

司会 ～ 議論は尽きないとは思いますが、予定していた時間も経過いたしました。実はこの入門講座のワークショップの中身につきましては、他の部署でも興味を持っているということもありますので、関係するものにつきましては、こういう話があったと伝えたいと思います。また、懇談会の中では、市長が将来形にしそうなものも見えてきたような気も致します。協働推進係の方でも実現できそうなものについては取り組んでいきたいと思っております。

それでは、この辺で懇談会の方を終了したいと思います。

最後に善岡市長よりご挨拶を申し上げます。

意見拝聴終了

市長挨拶 ～ 本日は、いろいろなご意見を聞かせていただきまして、市長の役割というのはやはり地域に出ていきながら、生の声を聞いて、それをどう役所の物差しではなくて市民の物差しの中で実現していくのかということだと思っております、私の目指しているところでございます。

情報不足で誤解されていたりすることもあるのですが、こういう機会をもっと持ちながら、お互いに同じような情報を持って話し合っていけるようにしたいと思っております。皆さんの話の中で私が気づいていなかったこともありますし、こういう話がやっと市民から出てきて、これをうまくやっていけばというお話も聞かせていただきました。

何をやるにしても土壌ができてこない行政だけが走っていても成功しない。こういう時代になってくるとこれからは、皆と一緒に同じ情報を共有しながら、また、行政が机上の上だけでものを考えるとニーズに

なかなかこたえられないので、意見を聞きながら、皆さんの思っているところに近づきながら、実現をしていくことが、おそらく砂川に限らず行政に求められているところだと思っております。

本日もいろいろなご意見を聞かせていただきましたので、それらを踏まえながら、これからの政策に反映していきたいし、来年から少し手を付けることもイメージしながら聞いておりましたので、今回に限らず私はいろいろなところに出ていきますので、いろいろな機会を通じて皆さんとまたお話ししたいと思っております。今後とも皆さんと一緒に進んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

5. 閉 会 (20:10 終了)